

第4回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概 要)

先般開催した、令和6年度第4回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和7年3月 11 日(火) 14 時 30 分～16 時 30 分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室及び WEB

3. 主な意見等

- 2月の木材市況について、原木は冬山造材により順調に入荷しているが、一部の径級で若干過不足が生じている地域もある。製材の荷動きは製品需要の減少により悪い状況が続いているが、一部製品において徐々に受注が回復してきているとの声もある。道有林の立木販売入札については、落札率 80%、平均落札単価は前年度比 76.5%と大きく低下している。
- 大雪の影響から運材含めて事業が遅れている地区が散見される。本州でも大雪の影響からヒノキ等の伐採が抑えられ、カラマツの需要が若干増えているとの声も聞かれる。広葉樹については引き続き需要が旺盛で、可能な限り伐採を広葉樹に振り替えている地区もある。令和 7 年度森林整備予算については、前年比増ではあるが、コスト上昇により、造林事業を中心に行うことから、間伐材の出材が減少する可能性が高い。
- チップ原料材が不足しており、チップ価格の上昇によりチップ工場は採算が厳しい。日本向けの2×4を専門に扱う海外メーカーが減少している中、低迷している中国の輸入量が戻ると、さらに日本向けが減少するのではないか。昨年は夏場の猛暑で虫害材が多く、品傷みが激しかったことから、今後国有林材について、伐採後早急に販売する形を検討していただきたい。
- 輸送コストや林業機械の価格等、各種コストが高騰し、素材生産業者の経営を相当圧迫している。今後も人手不足やコスト上昇が継続するため、生産方法を考えていく必要がある。2024 年輸送問題で輸送の制限範囲ができており、厳しい状況となっている。
- 生産調整が続く本州の合板工場では、カラマツ丸太を中心に不足感が出ており、昨年末より北海道に集荷要請がきている。不足の理由としては、ベイマツと比較し安価であるカラマツを使いたい、かつトラック輸送問題で当初集荷量を減らしていたが、いざ増やす段階でカラマツが本州内に入っていない状況となったため。今年度の立木販売の供給調整に関しては一定の効果があったと考えている。現在適正在庫に比べ少ない状況のため、春先から立木販売を購入したい。
- 年間 18 万t生産していた四国の大手製紙会社が生産停止し、影響が出ている。そのうち 1/3 弱の

生産が北海道内に振り替わってくるため、現在積極的に原料を調達しており、一部価格による原料の奪い合いが発生する可能性がある。

- 今年度前半は順調に来ていた栈木が、ここにきて生コンの原料不足及び人手不足により工事が制限されたことで、需要が減少している。国有林には ICT やスマート林業に先頭をきって取り組み、材を速やかに搬出する体制をとっていただきたい。
- 従来から建築材需要低迷時に、本州のスギ材メーカーが梱包パレットを一部生産していたが、ウッドショック後3年も需要落込みが継続したことで、梱包パレットが生産品目となり、一定のシェアを確保してしまった。北海道では長さの要望に对应しているため、需要が維持できているが、全道的に強化しないとさらにシェアが奪われかねない。